



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一一七号）

霜降

十月二四日



おかげ犬

近頃、おかげ横丁で人気なのが、「おかげ犬みくじ」。総合案内所を兼ねた「おみやげや」の店頭に並んでいます。なんでも、おかげ犬は、庶民の伊勢参りが盛んになった江戸時代、病気の主に代わって、伊勢参りをしたという、大変な忠犬です。にわかには信じ難いという方もいらっしやるでしょうが、古い絵図にもしっかりと描かれているのです。

神宮徴古館（ひらしげ）にある初代、歌川広重（ひろしげ）（一七九七〜一八五八）の画「伊勢参宮宮川渡しの図」。文政一三（一八三〇）年のおかげ参りの宮川の渡しの風俗を描いたものです。この年のおかげ参りは、前年に伊勢神宮の式年遷宮（しきねんうつし）が行われたこともあって、神さまの「おかげ」をいただけごと、五カ月で約五百万人も老若男女が伊勢参りに押し寄せたといわれています。その様子は、伊勢街道の道筋であった松阪在住の国学者の本居宣長（もとぢのりなが）も記しており、相当の賑わいであったようです。

画はその群集が橋の架かっている宮川のたもとで渡し舟を待っている場面ですが、そこに描かれた首に御幣をくくりつけた白い犬が、「おかげ犬」なのです。「東海道五十三次」などで風景画家として庶民からの人気が高かった広重ですから、おそらく当時話題となっていた犬も描き加えていたのでしょう。

近所の人に連れられてきたのか、道中で知り合った人と一緒なのかはわかりませんが、この犬も宮川を泳いで渡ることではなく、皆と一緒に舟を待っています。さすが忠犬だけあって、賢いものです。

このおかげ犬、今ではおかげ横丁のマスコットとなっていて、「もめんや藍」のショーウィンドウにも木綿製のおかげ犬を見つけました。

文 千種清美

